

箕輪町 農業委員会だより

挑戦

イネに学び農と食を考える

----- 町内小学校の5年生の稲作学習の紹介 -----



昔の農具で脱穀をしました(西小)

5月に田植えをしてから4ヵ月、すくすくと成長したイネ、今年も立派なもみになりました。9月下旬各校で稲刈りを行いました。イネの苗からコメが、自分もイネと一緒に成長した喜びを感じました。後日お餅や五平餅などにして試食をしました。わらはミニわらぼうきやしめ縄などのわら細工に挑戦しました。イネの栽培を通して農作業の面白さを学びました。



はぞかけも初めてでした(中部小)



大勢で作業やればできるじゃん(北小)



4アールの田14人でやり上げました(南小)



ミニわらぼうき



しめ縄



お餅つき、重いきね、おいしいもち(東小)

目から うろこ編 その十一

「醗酵肥料で旨みが出る野菜を
作ってみませんか？」

唐澤 金実さん（沢）

醗酵肥料で作った野菜は有機物の醗酵過程で作られる旨み成分のアミノ酸やビタミン類が豊富で日持ちも良くなり、萎れても水に漬ければ蘇ります。また、肥料吸収がアミノ酸優先なので病害虫の発生も少なくなります。醗酵肥料はその名の通り有機物を身近な菌で順番に醗酵させ有機物に含まれるタンパク質を分解させたもので、アミロースやセルロースが残る状態になるまで分解が進んだものをいい、作物が吸収し易いアミノ酸、ビタミン類、酵素、植物ホルモン、病害菌の抑止をする抗生物質等が含まれます。この肥料が三握りもあればキャベツ一玉が育ちます。醗酵とは芳醇な香りがする甘酒、みそ・醤油作り、酒作りのようにタンパク質を菌で分解せることを言います。有機物分解の段階でアンモニアが発生するのは醗酵ではなく腐敗です。よって、雑菌の繁殖によって腐敗しない冬期（12月～3月）に仕込みます。醗酵肥料を100kg作るのに使う有機物は、小糠60kg、菜種粕20kg、カニガラ5kg、魚粕5kg、くず米20kg等で、手に入ればくず大豆10kgです。くず大豆を使うと肥効が長くなります。使う菌は皆さんの身近にある、麹菌、納豆菌、乳酸菌、酵母菌と土に多くいる放線菌です。醗酵の順番を守って働いてもらう菌に植物に必要な栄養素を作ってもらいます。

醗酵順番

- ① 麹菌醗酵させて菌の餌となる糖を作ってもらう。
- ② 納豆菌にタンパク質・繊維質を分解してもらう。
- ③ 乳酸菌に雑菌繁殖を抑える乳酸を作らせアミノ酸やビタミンを作ってもらう。
- ④ 酵母菌にアミノ酸の再合成と植物ホルモン、ビタミン類を作ってもらう。
- ⑤ 最後はアミノ酸を餌に放線菌に抗生物質を作ってもらう。

醗酵肥料を作る時期はお酒の仕込みと同じ冬の寒い時期。醗酵させると余計な雑菌の繁殖が無く上質な肥料ができます。作ってみたい方は作り方の資料を差し上げますので、唐澤まで連絡ください。
参考文献（小林達治著：根の活力と根圏微生物 薄上秀男著：発酵肥料の作り方・使い方）



東箕輪営農組合 長いも掘り



福与地区 防草ネット実証試験



営農組合活動紹介

北部営農組合 サツマイモ収穫販売



箕輪営農組合 収穫感謝祭



明けましておめでとうございます

農業関係者の方々はもとより、多くの皆さまには、日頃より農業委員会の農地行政に対しましてご理解・ご協力をたまわり、心より感謝申し上げます。

コロナ禍はほぼ終息しましたが、昨年は日本も「地球沸騰」や「極端気象」と表される猛暑に見舞われ、雨不足も加わって、農作物の作柄は芳しくありませんでした。物価の上昇傾向も続いており、農業経営はかつてない厳しい局面にさらされていることは周知の事実であります。

重大かつ喫緊の課題だらけの農業に危機感をもった国は、食料の安全保障、自給率の向上、ゼロカーボン社会との調和などを見据えつつ、食料・農業・農村基本法の四半世紀ぶりの大改正をはじめとした様々な施策を打ち出しています。市町村に対しては「10年後、どの農地を誰がどのように使うのか、目標地図を描きなさい」という「地域計画」の策定を求めてきており、農業委員会は地域計画の核となる「目標地図」の素案づくりに着手しています。しかし、人口減や高齢化によって、就農人口が5年後に半減、20年後には1/4

にまで急減するという衝撃の統計予測が公表されているように、目標地図の実効性や具現性の精度に？が付くことは避けられません。

目標地図が、かつての人・農地プランのような絵に描いた餅にならないようにするためには、農家の方だけではなく、地域の多くの人たちが、情報を共有し、知恵を出し合うことが欠かせません。今年前半に、まず農家へのアンケートを実施し、その後、町内の5つの営農組合などを基本とした協議を始める予定であります。その節には、関係者各位に大変なご面倒をおかけすることになりますが、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

地域計画に限らず、皆さまと手を携えて、やりがいのある農業、利益が出て努力が報われる農業、国力の基盤となり国民誰もが尊重する農業の復活を目指した歩みができれば幸いです。

本年も、皆さまがご健勝で過ごされますようご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

会長 鈴木 健二

個人的には農業委員会の活動の限界と現実の乖離を感じ、無力を感じ続けた一年でした。

農業という産業の地盤沈下の根源は、やはり儲からないという現実ではないでしょうか。

農業従事者の収入アップのカギは政府としても農作物の価格見直し、そして農業者自身の儲かる農業への意識転換と自覚ではないでしょうか。

政府も労働組合への賃上げの指針を示すと同時に農家の収入増加への考え方・方向性を示してくれればと思います。

会長代理 春日 初

箕輪町農業委員会の各地区担当委員（任期：2024年3月まで）

唐澤 金実	沢上北部1組	79-5668	唐澤 俊秀	中原2組	79-5783	藤森 英雄	木下南城	79-4596	井口 雅文	福与卯の木	79-3801
大槻 憲治	沢15組	79-6116	春日 初(会長代理)	松島西小路	79-4370	小松 孝寿	木下南原	79-5219	金澤 博(農地部長)	長岡大門	79-5428
藤田 久一	大出4組	79-5525	唐澤 健二	松島春日町	79-6467	櫻井 克成	木下一の宮2	70-8536	上田 千志	南小河内 北部	79-5711
関 幹子(農政部長)	八乙女1組	79-3894	小野健一朗	松島南町3	79-0530	赤沼 好秋	富田 2組	79-5861	鈴木 健二(会長)	北小河内 中村	70-6212
小林 正俊	下古田1組	79-3312	倉田 孝子	木下上一東	79-5172	唐澤 由寛	中曽根 1組	79-5010			
唐澤 稔	上古田3組	79-4027	原 美鈴	木下南部	79-3138	藤澤 昭二	三日町上棚	79-4959			

JA上伊那北部営農センター
農事組合法人みのわ営農 → 79-0636

地区営農組合（5地区）：連絡先は上記の農業委員会の各地区担当委員におたずねください

北部（沢/大出/八乙女/下古田）、中部（上古田/中原/松島）、南部（木下/富田/中曽根）、箕輪（三日町/福与）、東箕輪（長岡/南・北小河内）

箕輪町農業委員会だより 第17号 発行 2024年1月1日
農業委員会事務局（役場 みどりの戦略課内）0265-79-3170

編集後記：17号では町内5校の小学5年生の稲作り学習会の様子の特集しました。近頃は機械化が進み農家でも田んぼの中を歩く事も少なくなる中、素足で代掻きをし、1本ずつ手で植、草を抜いて回り、鎌で稲刈りをする半世紀前のやり方を子供たちは一生懸命にまた楽しそうに体験しました。多くの学校ではもち米も作り、餅つきをして収穫の喜びを味わいました。当初は水田の生き物の数も少なかったが15年間化学肥料や農薬を使わないで育てるうちにたくさんの生き物が見られるようになり観察会もできるようになりました。子供たちが成長した時「自分たちの食べる米は自分たちが農家を支えることで守る」という気持ちが芽生えることを願ってやみません。（金実）